



門 凡 4  
3366  
卷



門 凡 3  
984  
卷

- 一 文字のよきを稱ひを改めしむ類
- 二 稱ひのよきを改めしむ類
- 三 地名を二のよき改めしむ類
- 四 号川をよきしむ類
- 五 河をよきしむ類
- 六 俗の稱ひをよきしむ類
- 七 俗のよきしむ類
- 八 是のよきしむ類
- 九 言便よくしむ類
- 十 義河をよきしむ類

明治廿七年  
十二月五日







或ハところニ一ノル者ニシテ又ある所の者あり  
 におる一ノル者ニシテ中流にあり一  
 づつは片田の者ニシテ中流にあり一  
 におる一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一  
 ちあるのむ一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一  
 上毛野、下毛野をもの言と有うとせざるは上毛下毛と云き  
 上野の言を首ノ人ノ訓ありと云きと野をのこしと毛を  
 とふんを首と云きと又也にの御みと上丹と  
 とかんつみと云きと上津丹生を首と云きと  
 件は、或は津無難の言と云きと  
 上毛野、下毛野をもの言と有うとせざるは上毛下毛と云き  
 上野の言を首ノ人ノ訓ありと云きと野をのこしと毛を  
 とふんを首と云きと又也にの御みと上丹と  
 とかんつみと云きと上津丹生を首と云きと  
 件は、或は津無難の言と云きと

東林堂

一ノル者ニシテ中流にあり一  
 づつは片田の者ニシテ中流にあり一  
 におる一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一  
 ちあるのむ一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一  
 上毛野、下毛野をもの言と有うとせざるは上毛下毛と云き  
 上野の言を首ノ人ノ訓ありと云きと野をのこしと毛を  
 とふんを首と云きと又也にの御みと上丹と  
 とかんつみと云きと上津丹生を首と云きと  
 件は、或は津無難の言と云きと

一ノル者ニシテ中流にあり一  
 づつは片田の者ニシテ中流にあり一  
 におる一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一  
 ちあるのむ一ノル者ニシテ中流にあり一  
 者あり一ノル者ニシテ中流にあり一







〇うとぬま

魚沼郡

和名物

伊予乃とある

又此郡の心中を流るる川を今おしの川と稱く  
 るる。於魚沼川と書るをえんオホハはまらる  
 べしハの記とゆも、さるを飯沼名安といふ  
 こ大聖河と書しハいふしき非るるけりさて  
 序まのえん本居大人地名を考得ぬといふ書  
 こ凡ッ流るる名又郡師等の名トモ古ハ文云こ  
 カハハラズ正字ニ借リ字ニマレアルベキマ、ニ  
 躬刺 ミ野 科野 道奥 稲野 針 針野 下  
 野 ナト ナトヤウニ書キ或ハ上毛野 下毛野 下毛野 多摩野 多摩野  
 ナド字ノ数ニモカハハラス三字ナトニモ書キタリ

東林風製

レヲヤ、後ニナリテ字ヲ擇フコト始アリ又必スニ  
 字ニ定メテ書クコトハナレルナリ云々サテ四郡  
 郷ノ名カクノ如ク好字ヲ擇ヒ必スニ字ニ書キツ  
 キテハ字ヲ借リテ書ク名ハ尋常ノ假字ノ  
 例ニテハニ字ニ約イカタク字ノ本音ノマ、ニテハ  
 其名ニ叶ハ難キガ多キ故ニ字音ヲマ、ニ轉  
 用ヒテ尋常ノ假字ノ例トハ異ナルカ多キコト  
 相摸ノ相、行濃ノ行ナトノ如シ、カ、ルメグ  
 ヒ皆是物々シキ字ヲ擇ヒテ又ニ字ニ約メレシ  
 メ、止ル事ヲ得スル此サマニ音ヲ轉用シタム  
 物ナリ然ルニ後世人此義ヲタトラスニテ四郡郷



ノ名トモノ其言善ニアタラサレトテ疑フ者多シ殊ニ  
 漢言者ナドハ父ハ漢籍ヲ見馴レタル心ニテ言ハ本  
 ト心得ンカラ其言ニ當ラサレ地名ヲハ後ニ訛レル  
 モトシテタトハ相模ハモトサレモ行儀ハシ  
 ノウナリシヲサガミシナノトハ後訛レルナリ  
 トヤウニサヘ思フメリ是レイニシキレガコトナリ  
 サガミシナノハ本ヨリノ名ナルニ相模行儀ナ  
 トノ字ハ後ニ換タルモノニテ本ナルコトヲ辨ヘサレ  
 モナリ云こといんをいふと又そのつぎに  
 訛ルものといふとあつていふと地魚沼  
 なることあるんをいふと古昔よりいふ地魚

いりらういりらう訛る今今いりらういりらう  
 えうえうえうえうえうえうえうえうえう

○あまぞう 蒲原郡 和名物 加年波良と云

へいへいへいへいへいへいへいへいへいへい

こかきえうアえんもいりり天の

○はしのき 品々木 楠

七とあまのきいりりりりりりりりりりりりり

○こくごは 四川 榎

○あよやまび 所山田 〇どとこ 土屋

○とうりやまき 藤崎田 〇さうりやまき 申西











て山もくつろく心もくろくまれば志のまけしふ  
ふ

地味ぬまの名位の派とくましくいふうまが熊取根え  
記に地震流はすを其派とくまき熊取村にすえ  
ひとのちろくせむるま

日本書紀天地天皇の御事、墨春地震とあるに地書  
のいとくまきをぢまんといふ西國中國四國とくまき  
といふも也

○ やえぎ 矢作楯

古事記に経津主神の矢作連之祖

○ いざもり 美守楡郷

○ こハ和名抄頸城郡御名、内事守比奈といひるを  
誤るるまんぬ字もぬいもく似たるま

○ みこし 子越楯

ゆこしーの由を略さしといふ人むんとさるあが  
中まかかかこねとくけしこじの字もまらと  
やうにちろくせむるま

○ うとに 蘭木楯

こハうつ不ぎいさまつ不の約とくまき一友人い  
このまらぬまを倭訓栞にうつ不の条も太  
平紀に等養ヲヨメルハ蘭ノ語ニヤ日本紀ニ云歩  
鞞ノ遺制ナルベシ又字彙に蘭ハ威賢矢器如











ト云

○かぢうごい

瓢谷杖

瓢の字古きえん

一友人の俳諧<sup>ハク</sup>てくうせきといふ者千律の句は  
瓢<sup>ハク</sup>てくうせきの瓢<sup>ハク</sup>をうさの膝といふところ  
このうさをうきえん<sup>ハク</sup>

○いもやわ

芋鞘地

こももと芋羽毛イモハダといふ地をさししはさげと  
いふことよきとともあまき改つるをささんと  
けし地の人々を文章より新らるるをゆい稱ひ  
たきをゆいものおるし

○いものお

今井桔

東林堂

平國

此とハモと言葉といふことあることあること  
うらみはらうらみえんこととこも又古名を多  
く稱ふ

○おしふたひら

狸平一撥

狸<sup>イヌ</sup>いたぬきを年之存とよませたるは  
信<sup>イヌ</sup>信<sup>イヌ</sup>の名人狸<sup>イヌ</sup>も終<sup>イヌ</sup>といふたぬきと云ハ異  
名のおも思つるを稱ふこと終<sup>イヌ</sup>と云ハ  
とよませたるはとよませたるはとよませたるは  
とよませたるはとよませたるはとよませたるは  
とよませたるはとよませたるはとよませたるは

○みつぐぬき

三樹楯

楯の字古きえん

○たいま

常麻楯







知とツと通るる

○やつが 宿田 概

前云本津川を思ひらるるべし

○たふにえり 種芋原 概

種ハたぬるる芋ハ麻るる種をこゝにたふとよ  
多るる麻を九年某木を許某福を伊那某  
船を布那某といふたれり上りたる時書り轉る  
格るる又芋を即とよあるる常一の

大板後野麻を常といひて即某麻とも書り麻ハ  
福を結く用る物をも即字もつるを同ト

ことか白芋を志ろそ者大芋をふれ網すふきいり

こせし芋をハつそをも網するむんたえの芋ハ何れ  
そといふるさまこ上り物らぬるる麻とよ  
たふをえりのふとりハ麻芋のよ〜むきいりところ  
るる

○ぬ〜いび 温出 概

人をだぶうらあも〜湯を急ら〜り  
ぬ〜いといふ何れ外扱谷温井村をぬ〜いと  
いふ

○いといち 一日市 概 詳

春嶺云ヒトヒイケのイを者キヒトヒケるる  
ヒを者使ふイと系るるん















キ人... 志... あらうせん

○ドオ〜 百百 村頭

上野... 此洲... 天朝... 又... 船...

その... 昔... 舟... 舟...

百... 舟... 葉...







○せあ、のめが

背合 柳皮印

背合 □ とニさるゝけしむのちニさるゝし、とぬいそ  
や、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
ふことゆり、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
ささちまへ、の佐物、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
たせの、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
形、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
是、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
あ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、

○あ、このけ

四十物 柳皮印

乾魚商人をあへもの、とさ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、  
ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、ささちまへ、

あ、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、  
川、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、  
さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、さ、の、

○さ、え、を

柳皮 柳皮印

雑、ハ、音、サ、フ、ニ、ハ、カ、ハ、と、よ、ま、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
轉、用、の、フ、の、款、と、同、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
い、や、え、伊、雜、柳、皮、名、帳、伊、射、波、と、あ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
言、と、推、し、誤、り、し、大、作、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
言、係、式、帳、伊、雜

○も、ろ、を

兩尾 柳皮印

西、も、ろ、と、い、の、義、川、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
さ、



とあるものなり

周のついでにわが国に人のいさむるに  
あつていふにわが国にわが国にわが国に  
いとおもふ成をいふといふ又なほいふ  
あきあきとをわが国といふこのいふは片の  
ころわが国といふといふの字あたりなる  
心をつたふと同一といふ

○文政五年といふころの七月十日といふ  
ころにわが国といふ  
八百會廻念花

東洋堂製

○せんぶふりてん

三十二貫拾雜 ○小志ふりてん

二十四貫拾

三十三貫拾三十四貫拾

ついでにわが国といふころにわが国といふ  
あつていふにわが国にわが国にわが国に  
いとおもふ成をいふといふ又なほいふ  
あきあきとをわが国といふこのいふは片の  
ころわが国といふといふの字あたりなる  
心をつたふと同一といふ

○せんくろんが

三貫拾地橋

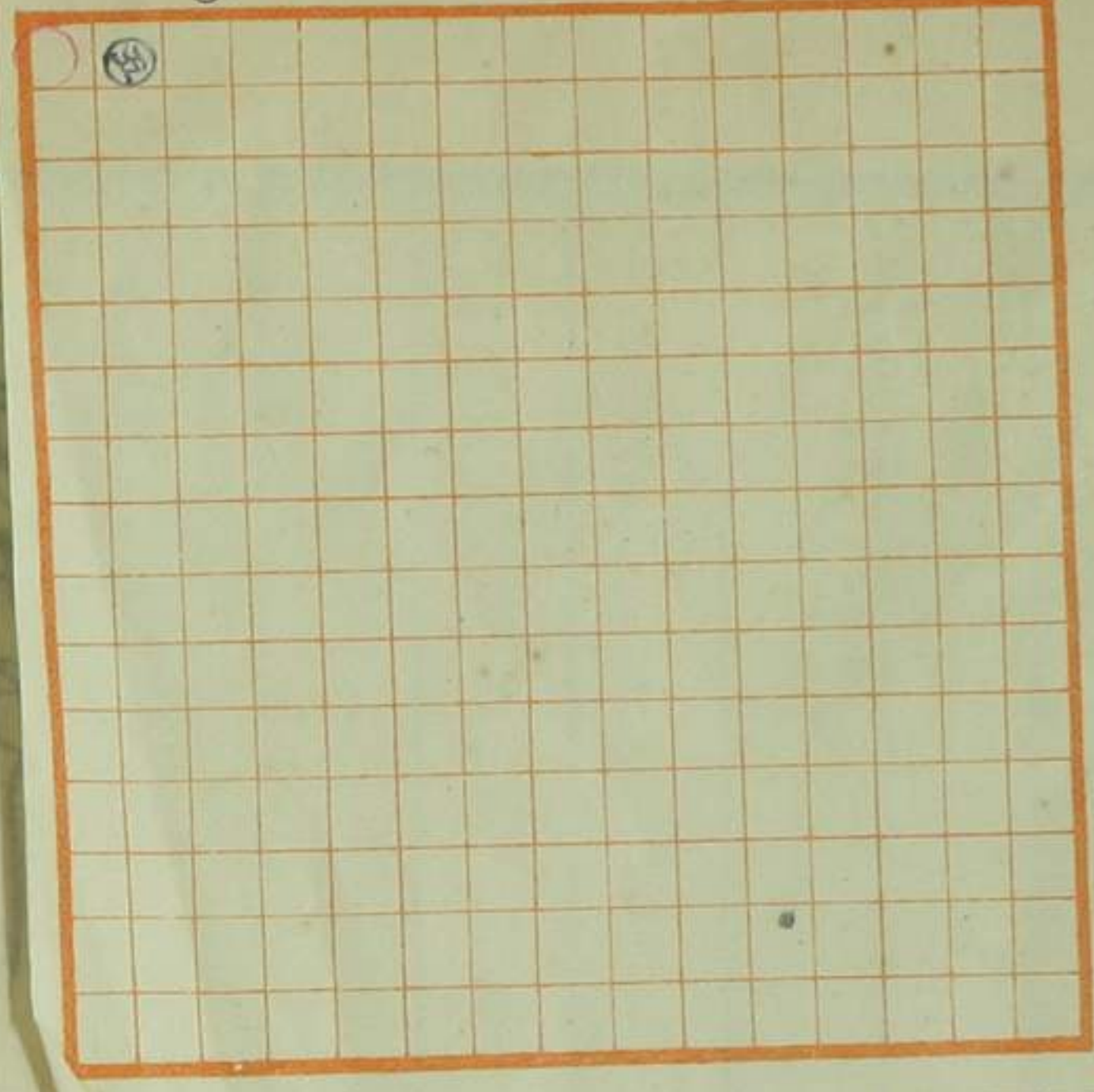
前の条の条







5年 月



しるし  
の  
大  
き  
い  
し  
る  
し

Vertical lines for writing, containing faint, illegible text.

東京  
長  
泰



Blank lined paper fragment at the top of the page.

いんげん豆の大きさを測る

いんげん豆の大きさを測る  
○ 長さ 1.5 cm  
○ 幅 0.8 cm  
○ 厚さ 0.2 cm  
○ 重さ 0.5 g  
○ 色 黄緑色  
○ 形状 扁平

東京製



